



漁師になりました！

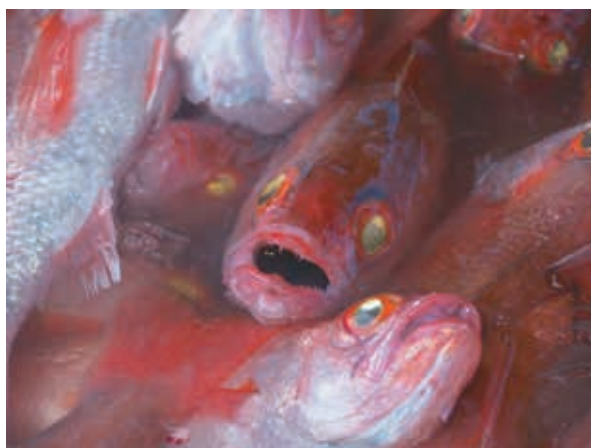
水産業は、対馬の人たちの暮らしを支える大きな柱ですが、担い手不足という深刻な状況が続いています。そんな中、対馬の海に可能性を感じ、漁業者の道を歩もうと頑張る若者たちがいます。彼らの思いや、これからの目標についてご紹介します。



水産県長崎を支える対馬の水産業

離島や半島、入り組んだ地形が多い長崎県は、海岸線延長で全国2位となる4,179 kmに及ぶ長い海岸線を有しています。広大な海域は、対馬暖流や大陸からの流入水など、様々な水が混ざり合うことで好漁場を形成し、たくさんの魚が獲れ、その水揚げ量や水揚げ額は全国トップクラスです。

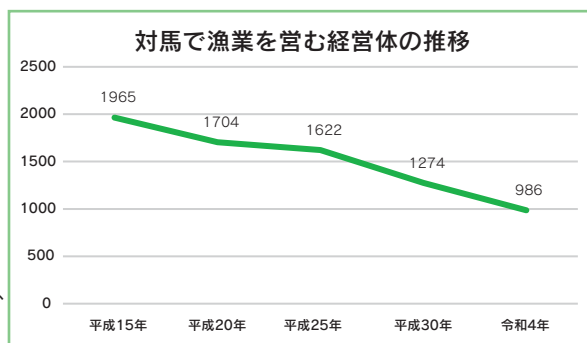
そんな長崎県の中で対馬は、魚の種類も獲れる量も多く、重要な位置を占めています。水揚げ量や額は県内のほかの地域が多いものの、県内の漁業を営む経営体数のうち約20%となる986経営体があります。対馬は今も、多くの人たちが海に向き合う、水産業の島です。



ノドグロやアマダイなどブランド魚も多い

高齢化や人口減少が直撃する対馬の漁業

個人で漁業を営む人が多い対馬では、人口の減少に伴い、漁業を仕事にする人が年々減り続けています。平成15年の調査で1,965あった経営体は、令和4年には半分に減りました。また、漁業に従事する人たちの年齢も高齢化が進んでいます。各漁協に所属する組合員の年齢構成は、この10年で60代以上の組合員の割合が大幅に増えています。対馬の漁業を担う若い世代を増やすことが、大きな課題となっています。



漁業を担う人材を育てています

対馬市では、新たに漁業を始める人をサポートするために、県の事業などを活用しながら、平成15年度から研修制度を作り、人材育成に取り組んでいます。現在までに約100人が研修を受け、多くの人が漁業者として、対馬の海で活躍しています。

漁業者になりたい！



研修制度(1年～2年)

独立を目指す

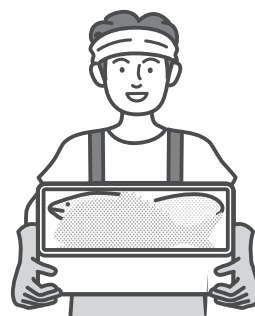
月100,000円～138,000円の研修費
年50,000円の漁業経費補助
指導者への謝金支給

地域漁業の担い手を目指す

月100,000円～138,000円の研修費
年50,000円の漁業経費補助

跡取りを目指す

月80,000円～100,000円の研修費
年50,000円の漁業経費補助



漁業研修生について
詳しくはこちら

次ページ：先輩研修生にお話を聞きました！

子どもの頃、思いもしなかった漁師の道へ

上県町出身の惣島太樹さんは、漁業研修生として、父とともに海へ出ています。中学卒業後、島外の高校・大学に進学し就職。海と全く関わってこなかった惣島さんが描く、対馬の漁業の未来とは？



惣島 太樹さん (32)



島外での会社員生活を経てUターン。漁業研修生として、父とともに船に乗り、サバの一本釣りやイカ、ブリ漁などを行う。現在研修2年目。

なぜ漁師に？

子どもの頃から、漁師になるという思いは全くなかったんです。高校は工業高校に進学し、大学でも電気関係の勉強をして、福岡で営業の仕事をしていました。

福岡で暮らしている時、飲食店などでおいしい魚が出てくると、大体が対馬で獲れている魚だったんです。

そこで漠然と、対馬の水産物をもっと広めたいなと思い始めました。しかし、父が漁師とはいえ、海に対して、私自身は全く興味がなかったのも、知識も経験もありません。まずは漁師の実情を知らなくては始まらないということで、漁業研修生制度を活用し、父の船に乗って海に出ることにしました。



会社員時代の惣島さん

海のない県から漁師を目指して対馬へ

世界遺産、白川郷のある飛騨高山出身の釜屋壮馬さんは、愛知県の水産高校卒業後、漁師になるため対馬へ。家族や周囲の応援を受け、対馬の海で活躍しています。



釜屋 壮馬さん (21)



愛知県立三谷水産高等学校、同校専攻科を卒業後、漁師の夢を追いかけて対馬へ。現在、イカやヨコワ漁などを行う船で研修中、現在1年目。

なぜ漁師に？

子どもの頃から、釣りが好きで、テレビでマグロやカツオを釣る漁師の姿を見て、漁師に憧れました。岐阜は海がない県で、水産高校がなかったため愛知の学校へ行くことにしました。専攻科では海技士になるための勉強と実習をしましたが、漁師になる思いは変わらず、漁師になる道を探していたところ、佐世保出身の先生から長崎県が研修制度が手厚いこと、その中でも、対馬をすすめられました。漁師をやるなら、独立してやりたいと思っていたため、対馬に行くことを決意しました。



高校の実習船での1コマ

同級生や仲間の姿に魅力を感じて

豊玉町出身の大石孝徳さんは、中学卒業後に進学のため島外へ、その後福岡で就職しました。対馬に帰ることを考えた時、仕事として考えたのが、漁師でした。



大石 孝徳さん (25)



工業高校卒業後、福岡県庁で、土木の技術職として勤務。Uターン後、漁業研修生として、イカ漁を行う船で研修中。現在1年目。

なぜ漁師に？

子どもの頃、魚釣りは好きでしたが、漁師と結び着くことはありませんでした。土木関係の道に進みましたが、対馬にUターンすると決意をし、対馬だと何ができるか考えてみた時に「水産業はどうだろうか！」と思いました。対馬に残っている同級生の中にも漁師がいて、彼らの姿をみて、自分のやりたいことと重なったというか、なりたいた自分の姿をしていたということもあり、漁師になろうと思いました。



土木の世界から漁師に

Q 漁師になってどうですか？

最初は、船酔いが酷くて。立ってられないし、何もかも吐いてしまって...おかげで13kgくらい痩せました。最初の半年は、ただただ辛くて、なんで帰ってきたのだろうと後悔したこともあります。でも、少しずつ慣れてきて、父の凄さがわかったと同時に、こんなに苦労して獲ってきた魚なのに、安価に取引されていることに驚きました。

沖にさえ出ればお金が稼げるというイメージは覆り、自分が研修を終えても、現状のままでは漁師だけで生きていけないという現実が見えてきました。



Q 今後の目標は？

漁師のスキルは、父に遠く及びません。このまま研修を終えて独り立ちしても、漁師だけで生きていくことは厳しいと考えています。そこで、会社員時代に培った営業や会社運営のスキルを合わせて、この状況をビジネスチャンスに変えていきたいと思っています。島内での一次加工など、獲った魚の価値を上げることで、少ない水揚げでも収益を上げられることができると考えています。

漁師をする中で、父やほかの漁師も、現状を何とかしたいという思いがあることを知ることができました。私が加わったことで、その思いをカタチにできるように頑張っていきます。

Q 漁師になってどうですか？

指導してくださる船長と共に船に乗って、イカ釣りを中心にヨコワを釣ったりしていますが、高校が太平洋側だったので、イカ漁を観たことがなく、その様子に驚きました。大量に釣り上げられるイカと、それを箱に入れていく船長の動きに圧倒されたのを憶えています。イカの沖立て（箱に詰める）など、まだまだ船長に、時間も質も及ばないので、早く慣れていきたいと思っています。また、船長の、海や鳥の様子などを観察しながら魚を探す「勘」にはいつも驚かされます。そういったことも、自分のものにできればと、精進に励んでいます。



Q 対馬での暮らしと今後の目標は？

知り合いが誰もいない中で生活を始めましたが、周りの人がとてもやさしく、差し入れをくれたり「頑張って!」と応援してくれるのがとてもありがたいです。海に出ると、星や朝日の美しさを独り占めできるのも、対馬に来てよかったと思うところです。

漁業は大変な仕事ですが、魚が釣れた時の達成感に魅力を感じています。まだまだ、技術的に未熟ですが、船長のように一人でできるようになって、自分の船で海に出る日を目標にしています。また、今は魚を獲ることを考えることで精いっぱいですが、これからは、ただ獲っていくだけでなく、販路を考えたり、消費者の目線で漁業を行ったりすることを大切にしたいと思っています。

Q 漁師になってどうですか？

初めてイカ釣りの船に乗ってみて、まず驚いたのが、漁場まで2時間くらいかけて向かうことでした。漁場によって、帰る港も違いますし、子どもの頃から身近に感じていた漁業でしたが、やってみると何もかも新鮮で面白いです。

今は、3人で船に乗っていますが、船長たちは、仕事が早く、そして道具の管理など、細かなところの気配りができるところが凄いなと感じています。生き物や天気相手で大変なこともありますが、やりがいもあり、毎日が楽しいです。



Q 今後の目標は？

独立して、イカ釣りメインで漁に出ることを考えています。やはり漁師は稼げるイメージがありません。仕事のスピードが利益に直結するので、船長たちのように早く、正確に、そして安全に仕事ができるようになりたいです。

今は、昔よりも減ったとはいえ、イカが獲れないわけではありません。ただ、このままではだめだという思いもあり、規格や数が合わず出荷されないイカをどうしたら活用できるかなどを考えていきたいと思っています。漁師になると決め、応援してくれている両親や家族のためにも、漁師として独り立ちして、自分のやりたいことの実現に向けて頑張りたいです。